

大草谷津田いきものの里 自然観察会

スズメバチって本当にこわい？

山口由富子（市原市）

日 時：2012年9月16日（日）10：30～12：00

天 候：曇り時々晴れ 一時小雨

参加者：14名（大人9名 子ども5名）

担当指導員：太田慶子・山口由富子

ここ連日、スコールまがいの雨が降っている。そしてこの日の天気予報も、にわか雨にご注意と。天候に不安を感じたせいか、出足がそろわない。そこで、チラホラとおいでになる方への配慮も含めて、事務所脇でのスズメバチに関する説明から始めた。

事前に集めておいた標本（死骸）をみせ、オオスズメバチ、ヒメスズメバチ、キイロスズメバチ、コガタスズメバチ、クロスズメバチなどの特徴や営巣の違い、習性などについて説明した。特に、スズメバチがなぜ人間を襲うのか（自分たちの子どもを守るため）、その理由（振動や大きな音声、熊と似た黒っぽい服装、ジュースや化粧品などの甘い香りに反応する）を理解し、万一襲われたときの症状と対処法（蜂毒を出し水洗いする。あれば抗ヒスタミン剤の塗布）については、念を入れて説明した。（アナフィラキシーショックなどについても）



参加者は、実際のスズメバチを目の前にして、特にオオスズメバチの女王バチの大きさには、驚きの声をあげていた。これは、下見の段階でわかってきたことだが、今年の大草の想定されるコース内では、まだスズメバチの巣を発見できていなかった。従ってスズメバチも飛ばず、テーマに沿った観察会とはならなかった。それでも、参加者の方がヒメスズメバチらしきものを1匹と太田さんがクロスズメバチを1匹、会が終了した後で皆さんと見たオオスズメバチの働き蜂と、計3匹だけのスズメバチとの出会いとなった。

皆さんから今回の感想をお聞きした後で、昨年秋、私はクロスズメバチと思しきハチに集団攻撃を受けた体験から、皆さんへハチに刺されたときには、とにかく病院へ行くことをお勧めした。大の大人（養蜂家）が、刺された翌日、腕が2倍以上に膨れ上がったことや、参加者のお子さんが、刺されて数日後、いじったことも加わってか、ひどい腫れに悩まされたことなど、多数の事例を見聞きしている。また、吸引器は複数の参加者の方に体験していただき、トゲの吸引にも有効であること、そして何よりも突然襲ってくるかもしれないハチやヘビなどに対する護身器具であることを説明した。

さらに、ハチは怖くて悪い生き物という印象を持ったかもしれないが、ハチも自然界に於いては、生態系の秩序を保つ大切な生き物であること。かつて、オオカミは家畜や人間を襲う悪い生き物として全滅させたが、今になって自然界には大切な生き物であったことがわかり、オオカミ復活を呼びかける人も出てきている。

人間だけの都合で、種を絶やすようなことは、あってはならない。自然は自然のままに、生物多様性であってこそ、ヒトという種の存続も保障されるのではないだろうか。